

アプリケーション\_23.01:

# 回折型ビーム分岐素子のシミュレーション

本書は、VirtualLab™のDouble Interface (両面インターフェース)を用いた、回折型ビーム分岐素子のシミュレーションを解説します。面形状は、分離された高さデータにより定義されます。シミュレーションには、サンプリングされたインターフェースが活用されます。

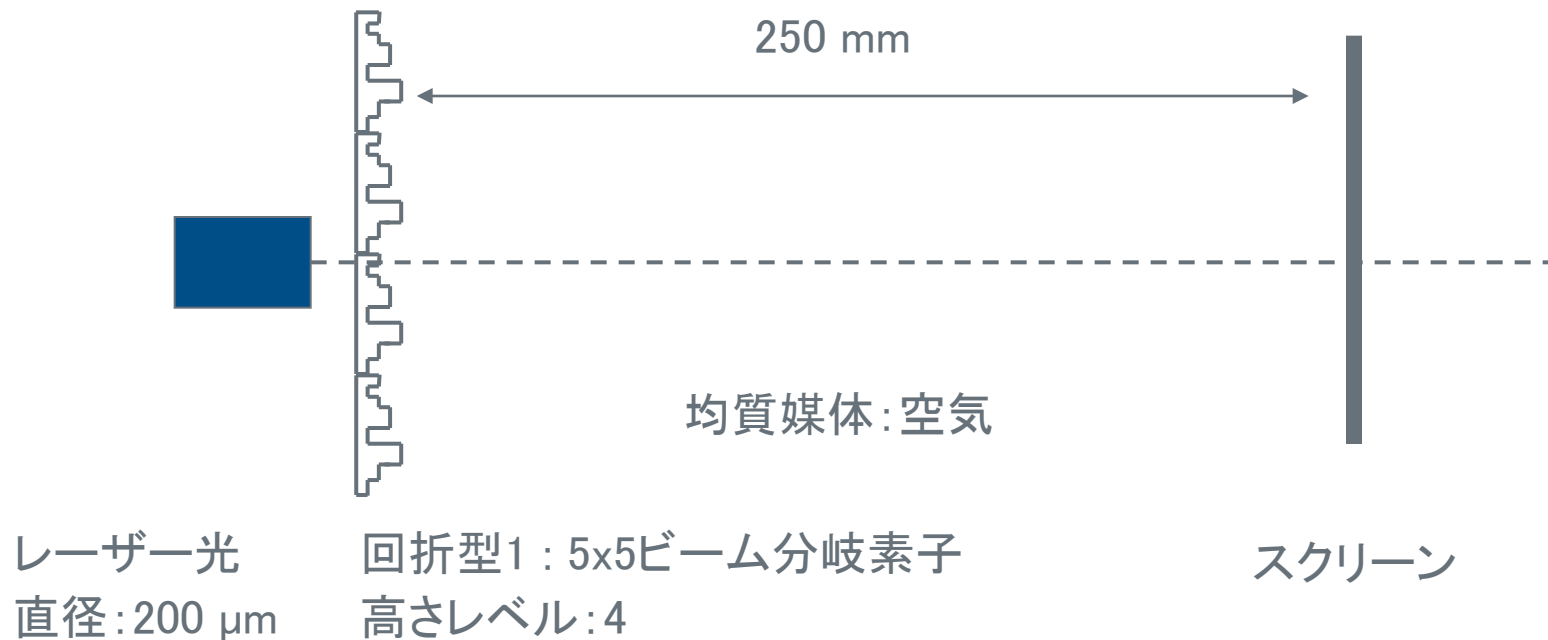
キーワード: diffractive optical elements、回折光学素子、DOE、micro optics、マイクロ光学素子、beam splitter、ビーム分岐素子

必須ツールボックス: Starter Toolbox

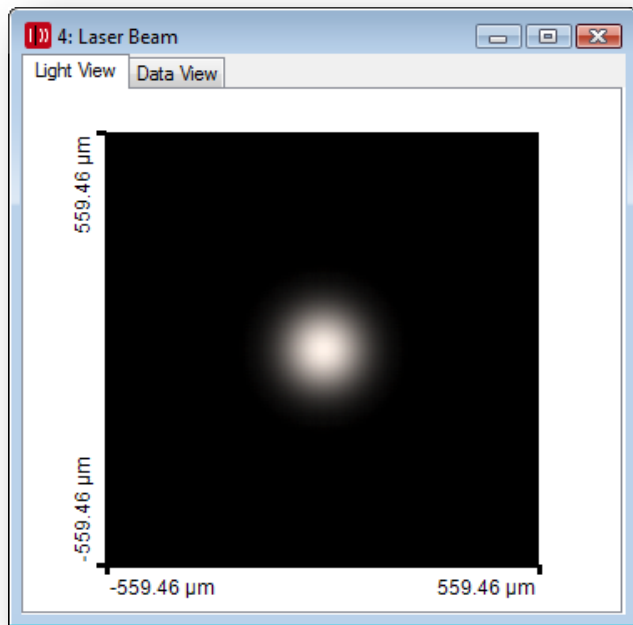
関連チュートリアル: DO.004



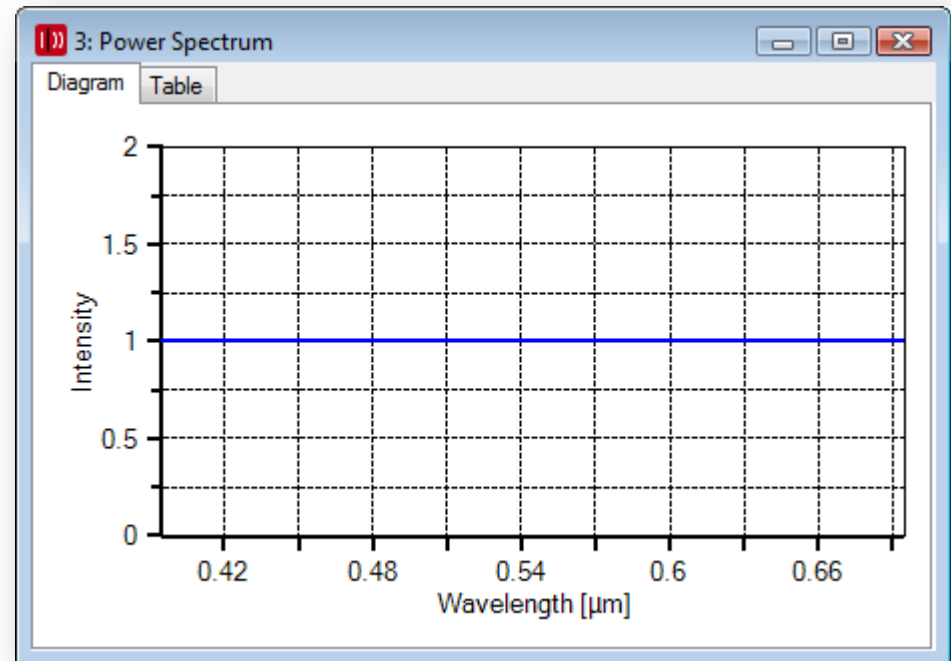
# モデリング概要



# モデリング概要

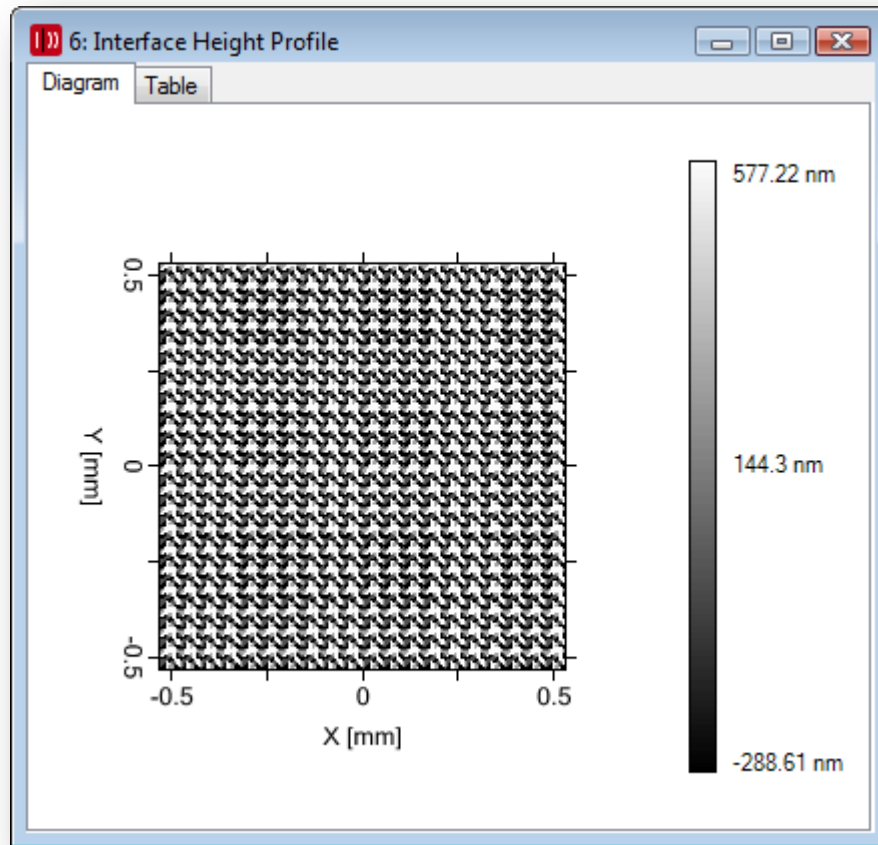


レーザー光  
直径 ( $1/e^2$ ):  $200 \mu\text{m}$



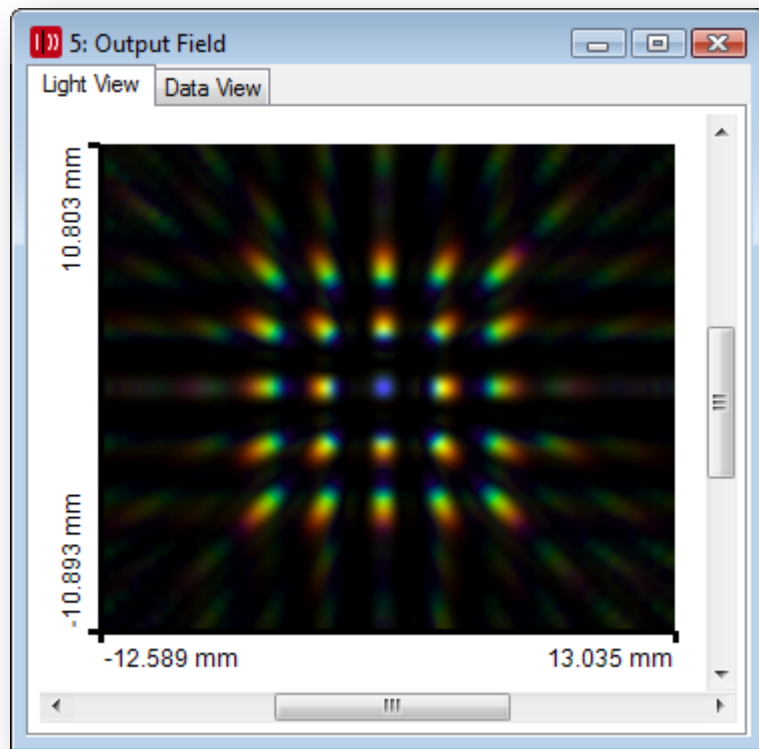
13の分離波長の  
パワースペクトラム

# モデリング概要



回折型ビーム分岐素子の表面形状

# シミュレーション結果



# まとめ

- VIRTUALLAB™ のバージョン4 以降、パワースペクトラムで定義された光源を採用可能となりました。
- シミュレーション可能な波長数に制限はありません。
- 回折構造を持たないビーム分岐素子のシミュレーションも可能です。
- Light Viewを用いると、実際の色味に忠実な多色ディスプレイが可能です。